

第6章

将来都市構造

-
- 6-1 将来都市構造の考え方
 - 6-2 将来都市構造図の構成
 - 6-3 将来都市構造図
-

第6章 将来都市構造

6-1 将来都市構造の考え方

(1) 将来都市構造の基本方針

将来都市構造の基本方針は次のとおりです。

① 周辺都市や町内の各拠点を結ぶ道路・交通ネットワークの形成

- ◇ 経済活動の活性化や生活利便性の向上に向けて、周辺都市と連絡する幹線道路のネットワーク強化を図ります。
- ◇ 既成市街地や集落地における生活環境の向上に向けて、公共交通ネットワークの充実や生活道路の改善を図ります。
- ◇ 名古屋市と結ばれる名鉄河和線の代表的な玄関口である阿久比駅・巽ヶ丘駅周辺の交通機能の強化を図ります。
- ◇ 阿久比川の河川軸などを活かした遊歩道・サイクリングロードの形成を図ります。

② 地域特性を考慮した誰もが快適に暮らすことができる市街地の形成

- ◇ 集約型都市構造の形成に向けて、名鉄河和線阿久比駅や阿久比町役場周辺へ商業・業務機能などの集積を図るとともに、町内各所の既成市街地や既存集落地において、生活利便性の高い居住環境の形成を図ります。

③ 新たな賑わいや活力を生み出す産業・交流拠点の形成

- ◇ 既存工業団地の維持・保全に努めるとともに、知多半島道路の高い交通利便性を活かした新たな産業拠点の形成を図ります。
- ◇ 知多半島広域観光ネットワークの中核を成す阿久比パーキングエリア周辺において、広域からの集客・交流を促進する「緑のふれあい交流拠点」の形成を図ります。

④ まちの骨格となる河川・市街地・丘陵地の土地利用の調和

- ◇ 阿久比川を軸として広がる田園風景や、本町の東西部に形成された住宅市街地、それらの背後地に広がる丘陵地など、地域特性に応じた土地利用を図ります。

6-2 将来都市構造図の構成

将来都市構造図は、都市や拠点間の連携を促進する「都市軸（軸）」、まちの骨格となる「土地利用（ゾーン）」、都市の核となる「都市拠点（拠点）」の3つから構成されます。

①都市軸(軸)

町外を含めた各地域の土地利用や都市拠点を有機的に結びつける6つの都市軸を設定し、人やものなどのネットワークの強化を図ります。

《高速交通軸》

知多半島道路及び新東名・東名高速道路などの東西国土軸を補完する役割が期待されている名古屋三河道路（構想路線）を『高速交通軸』と位置づけ、圏域を越えた広域交流や連携の拡大・強化を図ります。

《広域交通軸》

名古屋市に連絡する都市計画道路名古屋半田線及び西知多道路などに連絡する都市計画道路知多西尾線を『広域交通軸』と位置づけ、周辺都市との連携の強化を図ります。

《主要道路》

広域交通軸を補完し、本町の特徴である飛び地状の市街地を結びつける役割を担う軸として、都市計画道路知多東部線などを『主要道路』として位置づけ、分散する都市拠点間の連携強化を図ります。

《鉄道(名鉄河和線)》

名古屋市に直結し、通勤通学などの足となっている名鉄河和線は、広域的な公共交通軸として、輸送力の維持・保全を図ります。

《主要河川》

阿久比川水系及び十ヶ川水系の河川は、まちにうるおいをもたらす優良な自然・景観資源として、河川環境の保全や治水安全度の向上を図ります。

《アメニティ軸》

知多地域を結ぶ知多半島サイクリングロードなどを『アメニティ軸』として位置づけ、広域的な観光・交流の促進とともに、住民の健康・やすらぎを与える場として整備を図ります。

②土地利用(ゾーン)

町内を5つのゾーンに区分し、地域の特性や役割を發揮し、それぞれが調和した土地利用を形成します。

《住居系ゾーン》

幹線道路沿道を中心に形成されている既成市街地及びその周辺を『住居系ゾーン』と位置づけ、閑静で落ち着きのある居住環境を整備します。

《商業系ゾーン》

阿久比駅をはじめとする名鉄河和線の各駅前や、都市計画道路知多東部線などの幹線道路沿道を『商業系ゾーン』と位置づけ、住民の生活サービス機能を誘導し、賑わいのある空間を形成します。

《工業系ゾーン》

既存工業団地や交通利便性の高い幹線道路の沿道に『工業系ゾーン』を位置づけ、地域経済を支えるとともに、新産業の受け皿として、産業拠点の形成、企業誘致を進めます。

《農業系ゾーン》

市街地外に広がる農地は『農業系ゾーン』と位置づけ、農業の振興とともに、豊かな景観資源として、保全・管理を図ります。

《自然環境系ゾーン》

阿久比川の両岸や西部・東部の丘陵地に分布する森林を『自然環境系ゾーン』と位置づけ、本町の貴重な水と緑の空間として、また貴重な生物の生息環境として保全を図ります。

③都市拠点(拠点)

生活に必要な都市機能や賑わい・交流の核として4つの拠点を設定し、多様な都市活動の中心としての機能強化を図ります。

《中心商業・業務拠点》

名鉄河和線阿久比駅や阿久比町役場などが立地する町中央部を『中心商業・業務拠点』と位置づけ、行政サービスや商業、文化、情報発信、福祉などの様々な機能の集積を図ります。

《交通拠点》

知多半島道路阿久比インターチェンジ周辺及び名鉄河和線の阿久比駅、巽ヶ丘駅周辺を『交通拠点』と位置づけ、圏域を越えた広域的な移動・交流の促進や交通機能の強化を促進します。

《レクリエーション拠点》

阿久比スポーツ村やふれあいの森、丸山公園などの都市公園などを広域的かつ多目的な利用に対応した『レクリエーション拠点』と位置づけ、総合的な憩いの場としての機能向上を図ります。

《緑のふれあい交流拠点》

知多半島道路の中央部に位置する立地特性を活かし、更なる観光・交流の促進を図るため、知多半島道路阿久比パーキングエリア周辺を『緑のふれあい交流拠点』と位置づけ、名古屋市や中部国際空港とのネットワークによる広域的な対流・交流拠点の形成を図ります。

6-3 将来都市構造図

<将来都市構造図>



【凡例】

高速交通軸	住居系ゾーン	中心商業・業務拠点
広域交通軸	商業系ゾーン	交通拠点
主要道路	工業系ゾーン	レクリエーション拠点
鉄道	農業系ゾーン	緑のふれあい交流拠点
主要河川	自然環境系ゾーン	
アメニティ軸 (知多半島サイクリングロード等)		

注：この図は、長期的な視野により目指すべき都市の姿を想定したものであり、具体的なルートや位置、規模を想定したものではありません。